論　文 ニダバ (*Nidaba*) 34(2005), 96-104

チベット語丹巴・梭坡[Sogpho]方言の音声分析

鈴　木　博　之

1　はじめに

1.1　概況

本稿で取り上げるのは、四川省甘孜藏族自治州丹巴県梭坡郷で用いられるチベット語方言で、ソポ（梭坡 སོག་པོ་ Sog-pho）方言（以下「Sogpho 方言」と書く）と呼ぶ。

梭坡郷は丹巴県東部、大渡河東岸に位置する。郷内で用いられるチベット語は、カムチベット語に属すると考えられるが、その下位区分は現在詳細が分かっていない。郷内での方言差異は比較的均質と考えられるが、大渡河の対岸（西岸）、行政区画としては章谷鎮にあたる地域の方言とは特に発音、語彙の面で差が際立つという。《丹巴県誌》(1996) では、県内のカムチベット語方言が「二十四村地脚話」という名で言及され、梭坡郷のほか、中路郷、格宗郷などでも用いられるとされる。ただし、それぞれの郷ごとに異なる点が見られるという。なお、この地方のチベット語方言に関する詳細な先行研究は見つけられていない。

さて、丹巴県のチベット族の民族意識と言語の分布は非常に複雑である。本稿で扱う方言の所属は確かにチベット語と考えてよいが、梭坡郷の人々は「ギャロン」を自称する。県西部革什扎河流域で話されているのはゲシツァ語であるが、この地域でもまた人々はギャロンを自称する。ギャロン語は、県北部巴底郷などで用いられている言語である。ギャロン語とゲシツァ語はチベット・ビルマ系の言語ではあるが、チベット語とは別語支に属していると考えられている。しかしながら、互いの系統関係については未だ定説がない。

また、郷内にはギャロン・チベット地域や羌族居住地域に見られる石積みの塔（古碉）が多く見られ、言語とは別に民族の歴史などの観点からも興味深い点がある。

1.2　本稿の内容と構成

本稿では、筆者の現地調査に基づいて、Sogpho 方言の音声分析を行う。すなわち、音声学的考察から母音、子音音素および声調の弁別数に関する素描を行う。また、その結果とカムチベット語の他方言と対照し、その類型的特徴を議論する。

筆者の主な調査協力者は、尚松英さん（女性）で梭坡郷莫洛村出身である。媒介言語には漢語を用い、基礎構文と基礎語彙の聞き取りを行った。調査は 2004 年 7 月、梭坡郷莫洛村にて行った。

本稿の構成は、次のようである。まず声調の出現パターンを音声学的に考察し、声調の弁別数と表記法を決定する。その後、母音、子音音素の体系を示し、具体例をあげる。最後に、その結果から Sogpho 方言の特異点を示し、他方言との対照を行う。

2　声調の出現パターン

声調は調類と調値を分けて述べる。調値は５段階表示で音節右上に付す。５がもっとも高く、１が最も低い。

音声の観察から、声調はおおよそ語を単位として現れるように見える。

2.1　１音節例

１音節例の場合、ピッチのパターンは以下のように分類できる。

	音節初頭が高め	音節初頭が低め
平	[pʰɑ̃ʔ^{55}]「ぶた」、[ʈʂʰa̰ʔ^{55}]「あなた」	[ŋʷo̰^{22}]「私」、[ʱzɻ^{22}]「４」
上昇	[jɑ̰ʔ^{35}]「ヤク」、[doː^{35}]「～か？」	[mi^{13}]「火」、[luʔ^{13}]「綿羊」
下降	[nɑ̃^{53}]「空」、[sʰõ^{53}]「光」	[mo^{31}]「母」、[ɲə̃^{31}]「２」

音声的には、高平調、低平調、高上昇調、低上昇調、高下降調、低下降調の６種がある。

高上昇調になる語は、自由変異として高下降調にもなる。たとえば [jɑ̰ʔ^{35} / jɑ̰ʔ^{53}]「ヤク」、[n̥ɔ̃^{35} / n̥ɔ̃^{53}]「である」など。

2.2　２音節例

１音節例よりも限られたパターンで現れる。また、上昇下降のパターンが現れる。

高平調：[pʰɑ^{55} ji^{55}]「故郷」、[jã^{55} tɕĩ^{55}]「ヤンジェン」、[tsʰɑ˞^{55} ɕɻ^{55}]「温泉」

下降調：[ʰpõ^{55} tõ^{42}]「草原」、[ʰka̰^{55} mɑ^{42}]「星」、[ji̤^{44} bu^{42}]「村」

上昇調：[ge^{13} ʱgæ̃^{55}]「先生」、[ɲɨ^{13} ɕɯ^{55}]「20」、[ʈə^{12} ɾã^{35}]「彼ら２人」

上昇下降調：[ʱdə^{13} ʱdɑ^{42}]「石」、[ɪɑ^{13} lɑ^{42}]「家」、[mɑ˞^{13} n̥ũ^{52}]「油」

「１音節語＋非自立的要素」で２音節を構成する場合も、以上のパターンに当てはまる。

2.3　３音節以上の例

３音節でまとまる例としては、上昇調の例に [ʈə^{12} ɾã^{34} ɦã^{55}]「彼ら」などが見られるが、非常に数が少ない。

３音節以上からなる多くの語は、その構成からいくつかの要素に分かつことができ、１音節または２音節ごとにまとまることになる。この場合、それぞれの要素に先述の声調のパターンが現れるものが多い。一方で３音節以降の音節が基本的に低平調 [S^{22}] や [S^{11}S^{22}] となり、軽く発音されるものも見受けられる。

後者の例としては、[ɲɨ^{13} ɕɯ^{55} ʈʂɑ^{11} d̥ʑi^{22}]「21」など。

2.4　超分節音素としての声調

Sogpho 方言では、ピッチ高さの差異は平らの場合にのみ明確に対立を形成し、上昇下降を伴うものには初頭の高さは音声レベルでの差異が見られるのみと考えられる。

また声調の単位は、北村・長野 (1990) の Lhasa 方言の記述と酷似しているといえ、基本的に語単位で現れる語声調といえる。また、第２音節が非自立的要素の場合、その声調は第１音節とともに決定される。軽声は認めない。

以上の観察から、超分節音素としての声調は以下の５種を認める。

¯：高平　　´：上昇　　ˆ：上昇下降
_：低平　　`：下降

各声調符号は語頭に付すことにする。

3　音素体系

3.1　母音

以下の各母音につき、鼻母音、長母音も確認される。ときどき緊喉性が見られる。

ɿ i		ɯ u
e	ɵ ə	o
ɛ		ɔ
a		ɑ

3.2　子音

【子音】子音連続の構成要素としてのみ現れるものも含めた一覧

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	無声有気	p^h	t^h	$ʈ^h$	c^h	k^h	
	無気	p	t	ʈ	c	k	ʔ
	有声	b	d	ɖ	ɟ	g	
破擦音	無声有気		ts^h		$tɕ^h$		
	無気		ts		tɕ		
	有声		dz		dʑ		
摩擦音	無声有気		s^h	$ʂ^h$	$ɕ^h$	x^h	
	無気	ɸ	s	ʂ	ɕ	x	h
	有声		z	ʐ	ʑ	ɣ	ɦ
鼻音	有声	m	n		ɲ	ŋ	
	無声	m̥	n̥		ɲ̊	ŋ̊	
流音	有声		l	r			
	無声		l̥				
半母音		w			j		

【複子音】

^{m}b-, ^{n}d-, ^{ɳ}ɖ-, ^{ɲ}ɟ-, ^{ŋ}g-, ^{n}dz-, ^{ɲ}dʑ-, $^{m}p^h$-, $^{n}t^h$-, $^{ɳ}ʈ^h$-, $^{ɲ}c^h$-, $^{ŋ}k^h$-, $^{n}ts^h$-, $^{ɲ}tɕ^h$-, $^{n}s^h$-

^{h}p-, ^{h}t-, ^{h}ʈ-, ^{h}c-, ^{h}k-, ^{h}ts-, ^{h}tɕ-, $^{h}s^h$-, ^{h}s-, $^{h}ʂ^h$-, ^{h}x-, ^{h}l̥-, ^{ɦ}b-, ^{ɦ}d-, ^{ɦ}ɖ-, ^{ɦ}ɟ-, ^{ɦ}g-, ^{ɦ}dz-, ^{ɦ}dʑ-, ^{ɦ}z-, ^{ɦ}ʐ-, ^{ɦ}m-, ^{ɦ}n-, ^{ɦ}ɲ-, ^{ɦ}ŋ-, ^{ɦ}l-, ^{ɦ}j-

^{p}tɕ-, ^{ɸ}t-, ^{ɸ}ʈ-, ^{ɸ}k-, ^{ɸ}tɕ-, ^{ɸ}s-, $^{ɸ}ɕ^h$-, ^{w}d-, ^{w}ɟ-, ^{w}z-, ^{w}ʐ-, ^{w}ʑ-, ^{w}m-, ^{w}l-

kw-, gw-, x^hw-, γw-

mj-, rj-

^{h}kw-, ^{ɦ}gw-

4　音節構造

Sogpho 方言の音節構造は、最大 $^{C}C_{i}GVC$ と書ける。

音節核 V の担い手は、ほとんど母音である。ただし、ごく少数の鼻音が音節核を担うことができる（成節子音）。たとえば [ŋ̩^{12} ɕ^{j}e^{34}] /´ŋ̩ ce/「私の」など。

音節の最小単位は、成節子音のみからなる「音節核 V」であるが、非常に例が少なく、一般には「主子音 C_i ＋音節核 V」をとることが多い。

5　具体例

先述の音素一覧について具体例をあげつつ述べる。

5.1　母音

	通常母音例		鼻母音例		長母音例	
i	文字	´ji?	である	´jĩ	彼	´ti:
e	デルゲ	´de ᶯge	肝臓	`n̥tɕ^{h}ẽ bu	美しい	´^{n}dze:
ɛ	ない	´mɛ?	森	´sõ ɲ̥ɛ̃	鳥	´tɕɛ: ba
a	あなた	¯tɕ^{h}a	丹巴	¯tã ba	でない	´ma:
ɑ	傷	`mɑ	くい	´nɑ̃ kɑ̃		
ɔ	チベット	´pɔ?	盲人	`mĩ? ɲ̥ɔ̃	苦しみ	´nɔ:
o	5	¯ŋo	3	`sõ	小指	´ɦo: ze
u	歯	`s^{h}u	乳房	`?a lũ	羽織	¯ɸu: ge:
ɯ	誰	¯s^{h}ɯ	暗くなる	´mɯ̃ ^{n}ts^{h}ə		
ɿ	水	¯tɕ^{h}ɿ	換える	´zɿ̃		
ɵ	湯	¯tɕ^{h}ɿ k^{h}ɵ?	官	`^{h}pɵ̃		
ə	これ	´nə	2	`ɲ̥ə̃		

5.2　子音

5.2.1　単子音

	音節初頭が高め		音節初頭が低め	
p^{h}	ぶた	¯p^{h}a?	故郷	´p^{h}ɔ ju
p	頭巾	`pa: rje	娘	´pɯ mo
b			広い	ˆbõ
t^{h}	継母	¯t^{h}a mu		
t	衣服	`tə p^{h}o	今日	ˆta ri
d			顔	´dõ rə
ʈ^{h}	血	`ʈ^{h}a?		
ʈ	腹を立てる	`ʈu lã	小麦	´ʈə
ɖ	蛇	`ɖi:	鎖	´ɖo ^{h}tɕa?
c^{h}				
c	流れ星	`ce		
ɟ	漢族	`ɟə	尾	´ɟu ma

kʰ	カタ	ˉkʰa taʔ	桃	ˊkʰã bu
k	のど	ˋko mõ	腰帯	ˊka ra
g			老人	ˊga po
ʔ	兄	ˋʔa ʰko	祖母	ˊʔa tsʰɿ
tsʰ	ごみ	ˉtsʰa lɯ	半分	ˆtsʰaʔ ʰce
ts	やせる	ˋtsə ruː	おんどり	ˊtsa pu
dz			羽毛	ˊdza ʰpɯ
tɕʰ	酒	ˋtɕʰõ		
tɕ	もの	ˉtɕa bo	鳥	ˊtɕo
dʑ	重さを量る	ˉdʑa mo	ギャロン	ˊdʑa rõ
ɸ	羽織	ˉɸuː geː	月の中旬	ˉʱda wo ˋʰci ɸu
sʰ	場所	ˉsʰa ɕʰo	露	ˊsʰi bo
s	ごはん	ˉse	橋	ˊsã bu
z	夏	ˊnõ lɯ ˋzĩ	月末	ˊzoː mə ˊra
ʂʰ	知っている	ˋʂʰeː		
ʂ	傘	ˉʂo ʱduʔ	おいしい	ˊʂə̃ ˊtaː kɯ
ʐ	底	ˉkə ʐo	換える	ˊʐɿ̃
ɕʰ	木	ˋɕʰĩ pʰũ	猟犬	ˊɕʰa tɕʰə
ɕ	乳牛	ˉɕũː bə mə	ミルクティー	ˆɕo ju
ʑ	おとどし	ˋʑə ɲĩ du		
xʰ				
x	モモ	ˉʔa xe		
ɣ			友人	_ɣoː
h	鼻タバコ	ˉha rə	唐辛子	ˆhe zo
ɦ			彼ら	ˊtə rã ɦã
m	目	ˋmĩ	夫	ˊmə
m̥	医者	ˋm̥an ᵐbu		
n	天	ˋnã	そして	ˊnã
n̥	鼻	ˋn̥ɔ		
ɲ	古い	ˉɲĩ bo	太陽	ˊɲə mo
ɲ̊	心臓	ˋɲ̊ĩ		
ŋ	銀	ˋŋĩ	私	_ŋo
ŋ̊	枕	ˉŋ̊ɛʔ ᵑᵈʑiʔ		
l	風	ˋlũ	道	ˊlã
l̥	ラサ	ˋl̥a sʰu		
r			羊	ˊra
w			雌牛	ˊwə
j	ヤク	ˋjaʔ	じゃがいも	ˊjã ju

5.2.2　子音連続

Sogpho 方言の子音連続は比較的多い。特に複合語の語中に明瞭に現れる例が多い。

子音連続は、語中に来るときに比較的明瞭に発音される傾向がある。また、ほとんどの例において、子音連続の初頭子音は弱く発音される。

第１子音が明瞭に発音される場合は、第２子音が w などわたり音である。

1. 前鼻音

ᵐb : ˊᵐbɯ bə̃　虫
ⁿd : ⁻ⁿdo　ダルツェンド
ⁿɖ : ˋⁿɖɛ　米
ᵑɟ : ⁻ᵑɟi　震える
ᵑg : ˊᵑgo　行く
ⁿdz : ⁻ⁿdzu　ゾ
ⁿdʑ : ˊⁿdʑa ʰxã　靴
m̤pʰ : ⁻m̤pʰo　挙げる
n̤tʰ : ⁻n̤tʰu　高い
ȵʈʰ : ⁻ȵʈʰəʔ　牽引する
ȵcʰ : ˋȵcʰeʔ　抱きしめる
ŋ̊kʰ : ˋŋ̊kʰaj　町
n̤tsʰ : ˋn̤tsʰã　煙
ȵ̊tɕʰ : ˋȵ̊tɕʰɯ rɯ　唇
n̤sʰ : ˆn̤sʰõ pu　編む

2. 前気音

ʰp : ˋʰpũ　草原
ʰt : ˆʰta wu　胡桃
ʰʈ : ˋʰʈo　髪
ʰc : ˆma ʰce　あご
ʰk : ˋʰkũ dʑĩ　山地
ʰts : ˊʰtsa ʰkə　根
ʰtɕ : ˋʰtɕu　盗む
ʰsʰ : ˋʰsʰẽ mo　姉
ʰs : ˋʰsoʔ　生命
ʰʂʰ : ˋʰʂʰaː ma　狩人
ʰx : ˊᵑdʑa ʰxũ　靴
ʰl̥ : ˋʰl̥ɔʔ　教える
ʱb : ⁻ʱbaʔ　背負う
ʱd : ˆʱda ɳõ　月（天体）
ʱɖ : ˊʱɖɔ naʔ　ハエ
ʱɟ : ˆʱɟeʔ ʱdʑa　背中
ʱg : _ʱgɯ　9
ʱdz : _ʱdzõ　学ぶ
ʱdʑ : ˆʱdʑõ pʰũ　柳
ʱz : ˊʱzo ʱzo　たくさん
ʱʐ : _ʱʐɻ　4
ʱm : ˋɕɔ ʱme　水害
ʱn : ˋʱna mo　義理の娘
ʱɲ : ˊtɕɯ ʱɲɯ　12
ʱŋ : ⁻tɕɯ ʱŋo　15
ʱl : ˊʈõ ʱlaʔ　右
ʱj : ⁻ʱjɛ ʱlaʔ　左

3. 第１子音が口腔内調音子音

ᵖtɕ : ˋŋa ᵖtɕɯ　50
ᵠt : ⁻ᵠtɑʔ　種をまく
ᵠʈ : ˋᵠʈɯ　洗う
ᵠk : ˋpɔʔ ᵠkɔʔ _ʐɻ　かぶせる
ᵠtɕ : ˋᵠtɕaʔ　切り分ける
ᵠs : ˋᵠsã nõ　考え
ᵠɕʰ : ˋᵠɕʰaʔ　話す
ʷd : ˋtɕi ʷdə̃　17
ʷɟ : ˊtɕo ʷɟaʔ　18
ʷz : ˋɕʰĩ ʷzu　大工
ʷʐ : ˊtɕɯ ʷʐɻ　14
ʷʑ : ˊʷʑeː ze　忘れる
ʷm : ⁻ᵑga ʷmo ʰceʔ po　野牛
ʷl : ˊʷlar gõ　太もも

4. わたり音

kw : ˜kwɑ zu ´wo　一生懸命な
gw : ´gwoɦ　笑う
x^{h}w : `x^{h}wa ˟k^{h}oː　振り返る
γw : ´γwə do　参加する
mj : `ʔa mje　祖父
rj : `paː rje　頭巾

5. 3子音連続

^{h}kw : `^{h}kwə　疲れている
^{ɦ}gw : ´^{ɦ}gwɔ　愛する

6 Sogpho 方言の類型的特徴

ここでは、Sogpho 方言の類型的特徴について述べる。

6.1 カムチベット語の全般的特徴との対比

格桑居冕・格桑央京 (2002) の記述を基準に、カムチベット語の音声・音韻に関する類型的特徴について見る。あわせて Sogpho 方言の特徴を述べる。

1. 初頭子音
カムチベット語は中央チベット語（Lhasa 方言など）に比べ、比較的音素数が多い。また、子音連続が確認される。

(a) 無声鼻音
多くのカムチベット語で見られる。Sogpho 方言も有する。音価としては、完全な無声鼻音で有声のわたり音は伴わない。

(b) 有気摩擦音
多くのカムチベット語で見られる。Sogpho 方言も有する。

(c) 硬口蓋閉鎖音
Chamdo（昌都）方言など、ごく一部の方言に見られる。Sogpho 方言も有するが、硬口蓋閉鎖音が現れる語はすべて前部硬口蓋破擦音の自由変異を持つ。逆は必ずしも成立しない。

(d) 子音連続
多くのカムチベット語で前鼻音を伴うものが見られる。Sogpho 方言も有する。種類はカムチベット語としては豊富で、前鼻音以外に前気音や口腔内調音子音をもつ組も存在する。

2. 母音
8母音/i, e, a, o, u, ɛ, y (ʉ), ø (ɵ)/の対立を持つものが一般的である。また、多くのカムチベット語方言では、/a/と/ɑ/の対立が見られる。Sogpho 方言でもこの対立が見られる。また、/ɿ/が現れる。

3. 音節末子音
種類は少なく、/ʔ/ 1種のみのものも存在する。Sogpho 方言では軟口蓋鼻音が現れる例がいくつかあるほか、まれに弱い有声軟口蓋摩擦音が現れる例もある。

4. 声調
多くは4種類の対立（高平・低・上昇・下降）が見られる。ただし、これは音節声調による分類と考えられるため、ここでのSogpho方言の分析結果と直接比べることはできないが、Sogpho方言では5種類の弁別が見られる。

6.2 Sogpho方言の特異点

他のカムチベット語に見られないSogpho方言の特異点について以下にまとめる。

1. 声調
4種類の対立（高平・低・上昇・下降）のものはDerge（徳格）方言、mBathang（巴塘）方言、rGyalthang（香格里拉）方言などに見られるが、その一方で2種の対立（高・低）のものがNyagchukha（雅江）方言、Minyag（木雅）方言などに見られる。Sogpho方言に近接する方言のほうが声調の弁別数が少ないといえる。

2. 成節子音
チベット語諸方言におけるこの事例の報告は未見である。Sogpho方言では、次のような例で見受けられる。[ŋ̩^{12} cʲe^{34}] /ˊŋ̩ ce/「私の」

3. 前部硬口蓋破擦音とそり舌性
Sogpho方言の特徴的な音として、たとえば/tɕ/の1つの実現形に、[ʈɕ] というものが見られる。これは/ˋtɕʰɿ/「水」といった例に見られ、その音声実現は [tɕʰɿ^{55}, tʃʰɿ^{55}, ʈɕʰɿ^{55}, ʈʂʰɿ^{55}] などの自由変異を持つ。
なお、「水」を意味する語がそり舌音を含んだ/ˋtʂʰə/と記述される方言に、rGyalthang方言などがある (Hongladarom 1996)。

4. 母音/ɿ/
音素として/ɿ/と表記しているが、この音は歯茎破擦音、前部硬口蓋音、そり舌音とのみ共起し、[ɿ] と [ʅ] の条件異音を持つ。前者は歯茎破擦音に後続するときに、後者はそれ以外のときに現れる。

5. 母音/o/と/a/
たとえば、「私」は/_ŋo/で、単独では [ŋʷo^{22} / ŋʷə^{12}] となるが、複音節の一部を構成するとき、たとえば「私に」の「私」は [ŋʌ^{22} / ŋə^{22} / ŋo^{22}] などが自由変異で現れ、/ŋa - ŋo/というように/o/と/a/が交代する現象が多く見られる。

6. 音声的なわたり音の出現
上に述べた「私」という例では、/_ŋo/に対し [ŋʷo^{22} / ŋʷə^{12}] というように円唇性を帯びたわたり音が現れる。そのほか、「ご飯」という例では、/ˋse/に対し [sɛ^{55}, s̪ɛ^{44}, sʲɛ^{55}, s̪ʲɛ^{44}] というように口蓋化したような音声がわたり音のように現れる。これらの例は、自由変異で脱落が可能という不安定性から、音韻的に子音連続を構成するものではないと判断する。
ただしこのようなわたり音的要素を二重母音として音韻記述に反映させていると考えられるものに、金鵬主編 (1983) や Hongladarom (1996) の rGyalthang 方言がある。

7. 初頭子音連続の構造

多くのカムチベット語方言では、子音連続は前鼻音および/hj/が報告されるにとどまる。その中で青海省玉樹州で話されるrDzatod（雑多）方言では、比較的子音連続の種類が多い（黄布凡　他1994）。

Sogpho方言は前鼻音のほか、前気音と口腔内調音子音、わたり音などの構成要素が多くの例で確認される。わたり音を除いて、子音連続はすべて第2子音を中心にして発音され、それゆえに音節構造として第2子音を「主子音」とする構造を示した。

ただし確認された例外的な発音として[ʂkɯ^{55}]「盗む」があるが、[^{h}kɯ^{55}]が一般的な発音であるというため、発音の変種としてのみの扱いとしている。

rDzatod方言とSogpho方言を対照すると、組み合わせの数こそ多いがその構成要素で共通なものは、前鼻音と限られた両唇閉鎖音が先行する組のみである。

7　まとめ

本稿ではSogpho方言について、音声学的分析から音体系を概観し、その特異点を他のカムチベット語との対比から示した。

類型的見地から、Sogpho方言の音声・音韻は地理的分布の関連からの予測に反して、rGyalthang方言などカムチベット語南部方言群の特徴もあわせ持っていることが素描から見えると考えられる。

丹巴県の言語事情は、一般にカムチベット語が用いられている地域の中では、もっとも入り組んでいるものの1つである。Sogpho方言をはじめ、「二十四村地脚話」と呼ばれるチベット語方言群の考察には、近隣言語として北部で接するゲシツァ語やギャロン語、南部で接するカムチベット語Yulthong（魚通）方言との対照や、地域的に近接しないチベット語方言群との対照も必要になってくるだろう。

参考文献

北村甫・長野泰彦(1990)『現代チベット語分類辞典』東京：汲古書院

Hongladarom, Krisadawan (1996) Rgyalthang Tibetan of Yunnan: a Preliminary Report, in : *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* Vol. 19.2/Fall, 69-92

黄布凡 [Huang, Bufan] 他(1994)〈玉樹藏語的語音特點和歷史演變規律〉《中国藏學》第2期 111-134

金鵬 [Jin, Peng] 主編(1983)《藏語簡誌》北京：民族出版社

格桑居冕 [sKal-bzang 'Gyur-med]・格桑央京 [sKal-bzang dByangs-can] (2002)《藏語方言概論》北京：民族出版社

四川省丹巴県誌編纂委員會 [Sichuansheng Danba xianzhi biansuan weiyuanhui] (1996)《丹巴県誌》北京：民族出版社

[付記]

筆者による現地調査については、平成16年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(S)「チベット文化圏における言語基層の解明」（研究代表者：長野泰彦、課題番号16102001）の援助を受けている。